



株主の皆様へ

[第42期 決算報告]

平成18年4月1日～平成19年3月31日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける専門のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に応えて

液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独自のシステムを

構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第42期決算報告をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益改善による設備投資の増加、雇用情勢の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移するものの、原油価格の高騰などの不安要因が多岐にわたり、今後も楽観を許さない状況であります。

当軟包装資材業界におきましては、依然原材料価格の値上げ圧力が強く、また、当社が主力とする食品業界にお

いては業界再編などの取引環境の変化も大きく、業界各社における利益確保は容易でない状況が続いております。

このような状況下、当社においては、昨年10月に当社が販売する高速自動充填機「DANGAN」の共同開発会社である日本精機株式会社から、当社が所有する特許権などの開発成果、関連動産および製造技術などの全ての権利を譲り受け、当社単独による開発から販売までの一貫した組織体制を確立し、新製品の開発、包装フィルムと充填機械を併販するノウハウを生かしたビジネスの構築などを進めてまいりました。

その結果、売上高は147億81百万円（前年同期比3.1%増）となり、利益面では、経常利益は12億78百万円（同11.0%減）、当期純利益は7億45百万円（同15.9%減）となりました。

今後の経営戦略

今後の経済見通しにつきましては、景気は引続き回復するものと思われませんが、原油価格高騰の影響が懸念され、また、当社が主力とする食品業界は予断を許さない状況にあります。

このような状況のもと、包装フィルム部門につきましては、多様化する顧客のニーズに迅速かつ的確に対応することが重要であり、販売シェアの拡大、新規顧客の開拓、営業の深耕に努めるとともに、コスメタリーやトイレタリ

表紙の絵

洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。



ーなどの非食品分野の更なる拡販を積極的に推し進めてまいります。また、本社工場の生産設備増設による更なる生産力・品質管理体制の強化を図り、原材料価格の動向や環境問題への対応など、いかなる経営環境の変化にも迅速かつ効果的に対応できる経営体制の確立と、企業価値の向上に努めてまいります。

包装機械部門につきましては、包装フィルムと充填機械を同時に供給する事業展開をより強固にし、開発・製造から販売・保守メンテナンス業務まで

の全てを自社で行い、お客様に対してより一層充実した技術・品質・サービスの充実を図るとともに、機械メーカーとして顧客のニーズに応じた積極的な営業を目指してまいります。

また、種々の新型液体用複合容器の開発や販売体制の構築など、将来の事業基盤強化に向けた研究開発を行ってまいります。

次期の見通し

平成20年3月期の業績見通しにつきましては、売上高157億51百万円（前

年同期比6.6%増）、経常利益13億50百万円（同5.6%増）、当期純利益8億17百万円（同9.7%増）を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

代表取締役社長 **木野 登**

包装フィルム部門

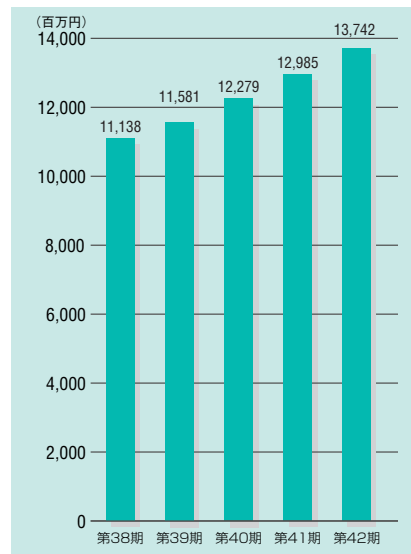
■ 事業内容

主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシングなどを入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレットリー、コスメタリー関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

包装フィルム部門につきましては、天候不順が通期にわたるなか、特に記録的な暖冬の影響を受け、季節商品が大きく低迷いたしました。こうしたなか、昨年4月に開設した札幌営業所をはじめとして、新規顧客の深耕活動や非食品分野の開拓など積極的に展開し、また、原材料価格の値上げに対しては、生産の内製化、物流体制の再構築など業務の効率化を推し進め、収益体制の強化を図りました。

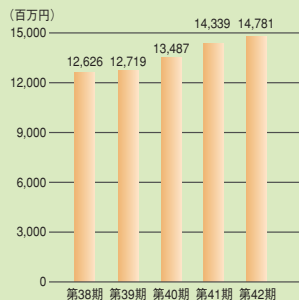
その結果、包装フィルム部門の売上高は137億42百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

■ 包装フィルム部門売上高推移

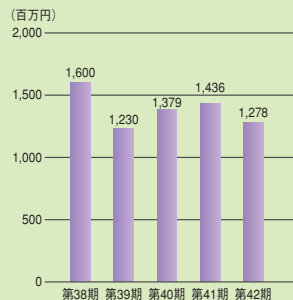


Financial Highlights 業績ハイライト

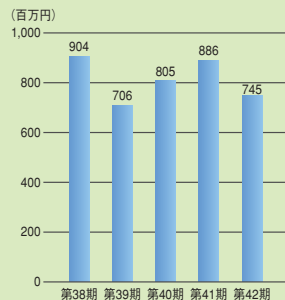
■ 売上高



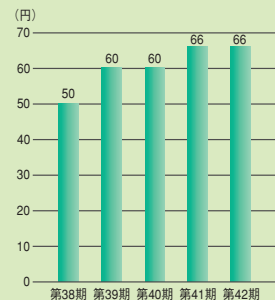
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 1株当たり配当金



包装機械部門

■ 事業内容

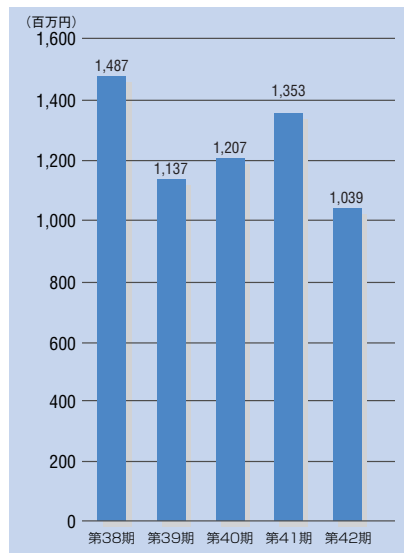
高速液体自動充填機を液体・粘体自動充填用フィルムとともに食品メーカー等向けに販売を行っております。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機はDANGANシリーズとして「納豆タレやからし等の少量パック専用の5分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」等の開発・販売を行っております。

※高速液体自動充填機（DANGAN）は、昨年10月に日本精機株式会社が所有する全ての権利（特許権などの開発成果、関連動産および製造技術）を譲り受けました。

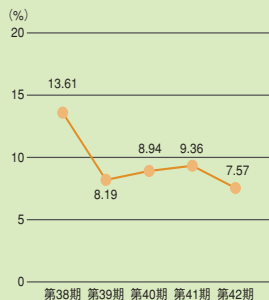
包装機械部門につきましては、独自のビジネスモデルである包装フィルムと充填機械のシナジー効果をより発展させるべく、高速自動充填機「DANGAN」の開発体制を強化いたしました。販売面においては、期初から低調な引き合いが続いた影響から業績予測を割る結果となりました。しかしながら、期の後半からは、活発な商談が続き受注の状況は順調に推移いたしました。

その結果、包装機械部門の売上高は10億39百万円（前年同期比23.2%減）となりました。

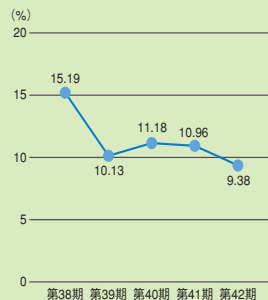
■ 包装機械部門売上高推移



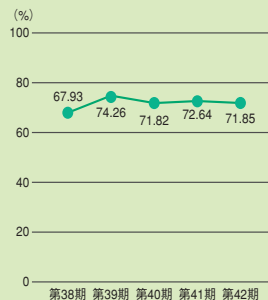
■ 自己資本当期純利益率



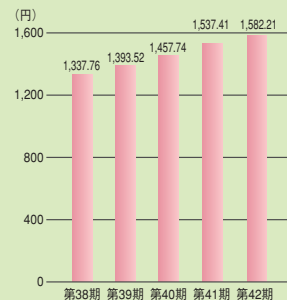
■ 総資産経常利益率



■ 自己資本比率



■ 1株当たり純資産



大成ラミックの環境への取り組み

当社は、これまでもISO9001・14001の取得に加え、廃棄物発生抑制のための生産システムの改善やゼロエミッションの推進など、環境への取り組みを率先して行ってまいりました。

今回は、包装フィルム製造工場から排出されるガス化した有機溶剤への対策をご紹介します。



今回導入したVOC対策装置（有機溶剤回収装置）

当社を取り巻く環境

地球規模での環境問題がクローズアップされ、環境保全への意識が急速に高まるなか、深刻な大気汚染の現状から、自動車排ガス規制（NOx規制）や大気汚染防止法の改正など、大気環境保全に関する規制が年々強化されています。

当社においては、大気汚染防止法ならびに埼玉県生活環境保全条例の施行により、包装フィルムの製造工程で発生・排出されるガス化した有機溶剤が規制の対象となりました。

当社は、地球環境との共生や資源保護などの社会貢献を企業の責任として捉え、今回の規制に対応したVOC対策を積極的に検討してまいりました。

VOC対策装置の導入

VOC対策には、大きく2つの方法があり、排出された溶剤ガスを回収し燃焼させる方式と、再度液化しリサイクルする方式があります。当社は、両方式の特長を踏まえ、環境保全と資源の有効な再利用を考慮し、液化リサイクル方式の採用を決定、平成19年3月に導入し稼働開始しました。

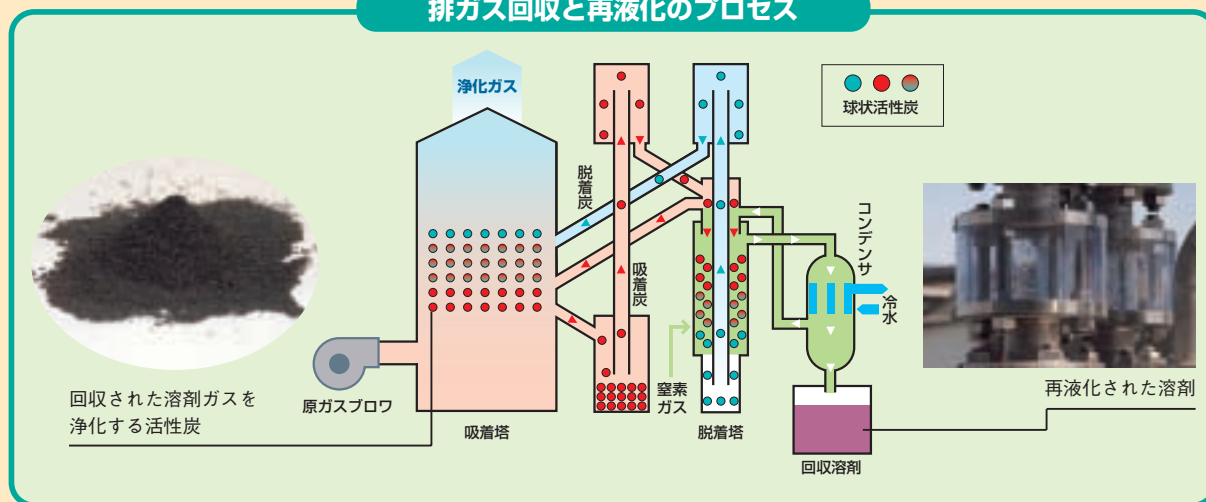
再液化溶剤のリサイクル

今後は、より環境に配慮したリサイクル方法を検討し、さらなる企業価値の向上を目指すとともに、液体包装のパイオニアとして、社会に貢献してまいります。

VOCとは

Volatile Organic Compounds 揮発性有機化合物の略語で、常温常圧で蒸発し空気中に容易に揮発する有機化合物の総称です。

排ガス回収と再液化のプロセス



貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	第42期	第41期
	平成19年3月31日現在	平成18年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	8,713	8,344
固定資産	5,161	5,046
有形固定資産	4,534	4,414
無形固定資産	209	113
投資その他の資産	417	518
資産合計	13,874	13,390
●負債の部		
流動負債	3,729	3,458
固定負債	176	204
負債合計	3,906	3,663
●資本の部		
資本金	—	2,408
資本剰余金	—	2,896
利益剰余金	—	4,327
その他有価証券評価差額金	—	95
自己株式	—	△0
資本合計	—	9,727
負債資本合計	—	13,390
●純資産の部		
株主資本	9,919	—
資本金	2,408	—
資本剰余金	2,896	—
利益剰余金	4,614	—
自己株式	△0	—
評価・換算差額等	48	—
純資産合計	9,967	—
負債純資産合計	13,874	—

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント！

有形固定資産

本年3月、VOC対策装置の導入により、有形固定資産が増加いたしました。

損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	第42期	第41期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
売上高	14,781	14,339
売上原価	11,357	10,892
売上総利益	3,423	3,447
販売費及び一般管理費	2,165	2,029
営業利益	1,258	1,417
営業外収益	30	25
営業外費用	10	6
経常利益	1,278	1,436
特別利益	50	90
特別損失	18	13
税引前当期純利益	1,310	1,513
法人税、住民税及び事業税	579	617
法人税等調整額	△14	10
当期純利益	745	886
前期繰越利益	—	123
中間配当額	—	207
当期末処分利益	—	802

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント！

無形固定資産

充填機械に関する特許などの事業を譲り受けたことにより、無形固定資産が増加いたしました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第42期	第41期
	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	628	1,641
投資活動によるキャッシュ・フロー	△469	△930
財務活動によるキャッシュ・フロー	△415	△396
現金及び現金同等物の増加額(減少額:△)	△256	314
現金及び現金同等物の期首残高	1,860	1,546
現金及び現金同等物の期末残高	1,604	1,860

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

営業活動によるキャッシュ・フロー

当事業年度における営業活動の結果得られた資金は6億28百万円(前年同期比61.7%減)となりました。これは主に、当事業年度末日が金融機関の休日であった要因等で売上債権の増加額7億9百万円、法人税等の支払額6億50百万円等があったものの、税引前当期純利益が13億10百万円、減価償却費5億66百万円等によるものであります。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は4億69百万円(前年同期比49.6%減)となりました。これは主に、本社新工場生産設備等の有形固定資産の取得による支出3億50百万円、事業の譲受による支出2億54百万円等があったことや投資有価証券の売却による収入1億47百万円等によるものであります。

ここがポイント!

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は4億15百万円(前年同期比5.0%増)となりました。これは、資金使途として配当金の支払額4億15百万円によるものであります。

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当 期 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	株主資本									自己株式	株主資本 合計	評価・償戻差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金									
		資本 準備金	利益 準備金	その他利益剰余金									
		買換資産圧縮 積立金	特別償却 準備金	保険差益 圧縮積立金	国庫補助 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金						
平成18年3月31日残高	2,408	2,896	165	25	25	—	—	3,310	802	△0	9,632	95	9,727
事業年度中の変動額													
買換資産圧縮積立金の取崩※1				△2					2		—	—	—
買換資産圧縮積立金の取崩				△1					1		—	—	—
特別償却準備金の取崩※1					△6				6		—	—	—
特別償却準備金の取崩					△7				7		—	—	—
特別償却準備金の積立※1					6				△6		—	—	—
特別償却準備金の積立					10				△10		—	—	—
保険差益圧縮積立金の取崩						△12			12		—	—	—
保険差益圧縮積立金の積立※1						46			△46		—	—	—
保険差益圧縮積立金の積立						0			△0		—	—	—
国庫補助圧縮積立金の取崩							△0		0		—	—	—
国庫補助圧縮積立金の積立							2		△2		—	—	—
別途積立金の積立								350	△350		—	—	—
剰余金の配当※1									△207		△207		△207
剰余金の配当※2									△207		△207		△207
役員賞与※1									△42		△42		△42
当期純利益									745		745		745
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)												△47	△47
事業年度中の変動額合計				△4	2	34	1	350	△98		287	△47	240
平成19年3月31日残高	2,408	2,896	165	21	28	34	1	3,660	703	△0	9,919	48	9,967

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。※1：平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目です。※2：平成18年11月の取締役会決議における中間配当金です。

物流ステーション稼動！

新工場設立（平成15年2月）以降、飛躍的に増加した物流業務の効率化を図るため、この度本社隣接地に「物流ステーション」を新設し、平成19年3月から稼動いたしました。

今後もさらなる効率化を目指し、短納期一貫体制の強化を推し進め、お客様のニーズに素早くお応えしてまいります。



株主優待制度 変更のお知らせ

当社は、株主の皆さまへの利益還元方針に基づき、創設より3年以上が経過した株主優待制度の内容を一部改め、平成19年9月末の株主様から下記のとおり実施することといたしました。今後も日頃のご支援にお応えするため、積極的な利益還元を行ってまいります。

変更前

毎年2回
（3月末および9月末現在の株主名簿に記載された株主様）

当社株式 100株以上保有の株主様
4,000円相当の自社製品
に関連する商品

変更後（平成19年9月末の株主様から）

毎年2回（3月末および9月末現在の株主名簿に記載された株主様）

当社株式 100株～999株保有の株主様
3,000円相当の自社製品に関連する商品

1,000株以上保有の株主様
5,000円相当の自社製品に関連する商品

※平成19年3月末の株主様には、変更前の株主優待品を6月上旬に発送いたしました。

■ 会社概要 (平成19年3月31日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XAシリーズ」等の開発・製造・販売
高速液体自動充填機「DANGAN」および周辺機器の開発・製造・販売

従 業 員 数 318名 (男子275名 女子43名)ほか
臨時従業員77名

主 な 事 業 所 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 札幌、東北、仙台、名古屋、大阪、福岡

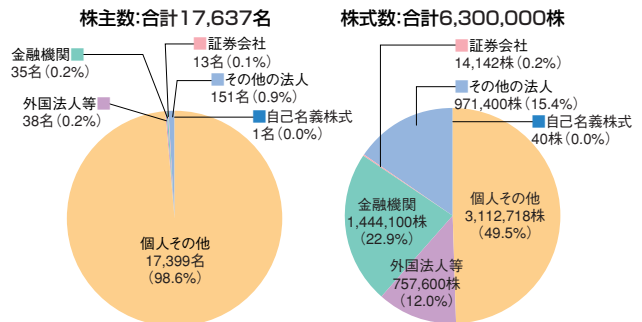
■ 役員一覧 (平成19年3月31日現在)

代表取締役社長	木 村 登
専務取締役 (管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役 (R&D本部長)	二 瀬 克 規
取締役 (営業本部長)	村 山 淳 司
取締役 (営業本部副本部長)	古 村 博
取締役 (生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役	里 村 睦 男
常勤監査役	裁 松 修
監査役	山 本 実
監査役	三 浦 芳 治

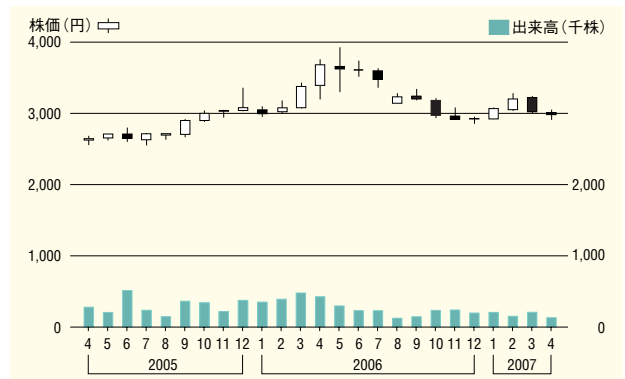
■ 株式状況 (平成19年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 20,000,000株
- 発行済株式の総数 6,300,000株
- 株 主 数 17,637名

■ 所有者別株式分布 (平成19年3月31日現在)



■ 株価／出来高の推移



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 (http://www.lamick.co.jp)
上場証券取引所	東京証券取引所

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回は6月上旬に発送いたしました。



今回送付の食品詰合せ写真



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い変えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 **大成ラミック株式会社** (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本決算報告は、100%再生紙を使用しています。